

平成 23 年度
事業計画書

平成 23 年 3 月
財団法人 西日本産業衛生会

< はじめに >

政府により本年1月に示された平成23年度経済見通しでは、「世界経済の緩やかな回復が期待され国内でも経済成長の好循環に向けた動きが進む」となっています。また、日銀見通しでも当面の経済情勢を「凧(なぎ)」と表現していたところですが、今般の「東北地方太平洋沖地震」という未曾有の大災害により今後下方修正を余儀なくされることは想像に難くありません。ようやくリーマンショックから立ち直り始めた矢先のことであり被災地域のみならず日本経済にとってのダメージは大きく、国民の全てが協力してこの難局に立ち向かうことになろうかと思われませんが、現段階では平成23年度について引き続き厳しい経済環境が続くもの、と覚悟せざるをえません。

当財団が拠点を有する北部九州地域についても、幸いにして地震による直接の被害を蒙ることはありませんでしたが、自動車メーカー等の生産活動が牽引する産業構造にあることから地域経済も有形無形の影響は免れないものと考えられます。当財団の主要業務である健診事業もピークであった平成20年度を境に2年連続で法定健診を中心とした受診者数の減少傾向が続いているところです。

平成23年度事業計画策定にあたっては、外部環境に不安定な要素が多く予想は困難な段階ですが、各企業の収益環境も厳しさが継続すること、また健保財政も同様に厳しい状況下にあることを考えれば、当財団の主たる業務である健診事業において大幅な受診者数の増加は見込めません。また環境測定等への支出抑制が効いてくることも考慮せざるをえない状況にあります。「僅かでも前年を上回る実績」を目標としております。

昨年11月、当財団は公益法人として設立40周年を迎えることができましたが、公益法人制度改革の中で平成25年11月を期限に「公益財団法人」か「一般財団法人」かの選択をすることになります。諸般の状況を勘案し、「一般財団法人」を目指す方向で準備を進めておりますが、地域に根ざす労働衛生機関としての社会的使命を果たすことに何ら変わるものではなく、厳しい環境下ではありますが、永年培ってきた「信頼」「協調」「貢献」の基本理念に基づき、勤労者並びに地域住民の皆様の健康づくりを最大の事業目的として、その健康管理・環境管理の向上に尽力していく所存です。

平成23年度を迎えるにあたり、次の事項を引き続き基本方針として事業の遂行に努めてまいります。

・健診・環境測定・医療それぞれの分野において、最高水準の精度管理、品質維持・向上を目指す。

・地域住民・企業・各種団体の要望に応えられる労働衛生機関・医療機関として、職員のレベルアップとそれを支える財務体質の確立を目指す。

・コンプライアンスの徹底を行なうとともに、顧客満足度の向上を図り、信頼され選ばれる法人を目指す。

< 具体的推進計画 >

(計数計画については別表(6 ~ 8 頁)の通りです)

1. 調査研究

労働衛生機関として、地域によりよい健康管理サービスの提供を行う為、大学や研究機関・関係官公庁・各種団体との連携を図りながら、健康診断等の業務に関する調査や研究を進め、その成果を着実に改善に結びつけ、健診医療業務の充実に努めます。

2. 啓発活動

職域や地域への健診の普及と啓発について、次のような活動を行っていきます。

メンタルヘルスの重要性が高まる中、来年度にも法定健診にメンタル項目を導入する動きもあります。より高いレベルの業務内容を実現すべく平成 21 年度に新設した「保健企画部」を中心として、内部体制の確立を行い、企業の経営者や労働安全衛生管理部門等に心と身体両面の健康管理の重要性についての啓発活動を行ってまいります。

創刊以来 150 号を数える機関誌「メディック」及び当財団の特徴のひとつでもある最新鋭のがん検診システム、PET 健診部門の広報誌「PET あんしん通信」を 23 年度より統合する予定ですが、より充実した内容で有用な健康情報を提供し健康管理への意識の高揚に努めます。

「事業年報」の充実についても中期的課題として取り組んでおり、健診の動向や有所見率の推移、事業場の労働環境の実態等を地域社会、及び各機関に情報発信してまいります。

3. 内部体制の整備

(1) 人材の育成

健診内容の充実、結果報告の迅速化、検査精度の向上、等業務の更なる改善を図るため、各種の研修会・講演会等へ職員を派遣して知識と技能の向上に努めます。また作業手順書の整備、業務標準化、内部研修の拡充を行いながら職員のスキル向上に努めるとともに、積極的な人事交流、適正配置により人的資源の活性化に努め、働きがいのある職場づくりを目指します。

(2) 設備・医療機器の整備

信頼される医療機関・健診機関・環境測定機関として、スタッフの充実とともに機器の充実は不可欠であり、経営環境の厳しい中ですが当年度も積極的に機器の更新を図ります。特に最も多くの受診者を迎える巡回検診車については前倒しに更新を進め、当該年度中に検診車両のデジタル化をほぼ終える体制を目指します。

(3) 精度管理の向上・サービスの充実

当法人が所属する日本医師会・全国労働衛生団体連合会・日本総合健診医学会・中央労働災害防止協会・日本作業環境測定協会等が実施する精度管理向上のための各種学会・研究会・講習会へ積極的に参加して、更なる知識・技能の習得向上に努めます。

また全国労働衛生団体連合会の実施する労働衛生サービス機能評価についても日頃の研鑽を旨とし、当年度に予定している評価認定更新をスムーズに行えるよう注力いたします。

さらに、主業務である健康診断については、一層の精度向上、結果提供の迅速化、またより利便性の高い健診データ提供を可能とするため基幹システム的大幅な入れ替えに着手致します。

4. 事業計画

(1) 産業医・保健師活動

当財団の特色であり全国有数の活動実績を持つ産業保健活動は今後とも当財団「公益事業」の中核を成す事業として推進してまいります。全国的な医師不足のなか、特に産業医の確保は困難ではありますが、地域の健康環境の向上のため可能な限りの拡大に努めます。また顕在化しつつあるメンタルヘルスへの対応、長時間勤務者への面接、また特定保健指導についても適切に各事業所への情報提供を行い「質の向上」を目指してまいります。

(2) 健康診断

当法人の基幹事業のひとつであり、今年度も最重要事項として計画の遂行に取り組みます。景気低迷や雇用環境の停滞を勘案すれば、受診者の増加は限定的であろうと推察されますが、当法人としては、引き続き受診率の向上を目指しながら皆様に満足頂ける質の高いサービスを提供してまいります。

一般健診及び特殊健診

雇用環境の悪化から法定健診の全体的な受診件数減少が続いていますが、法的に義務付けられている基本的な健診である雇い入れ時健康診断、定期健康診断及び特殊健康診断について地域に情報を発信しながら引き続き受診率向上に取り組みます。

協会けんぽ（旧「政府管掌」）健診

全国健康保険協会管掌保険（旧、政府管掌健康保険）の被保険者・扶養者を対象とする健診について平成19年度から、健診4施設全てで受診いただけるようになり着実に受診者数は増加しています。当財団施設間で協調しながら事業者の方々の利便性を高め、受診率向上に貢献いたします。

生活習慣病健診

一般健診と同様、雇用環境の悪化の影響は免れず受診者数は微増に止まると見込んでいますが、生活習慣病健診の重要性の啓蒙を続けながら健診精度の向上また有効な指導への要請に応えるべく体制を整備してまいります。

特に、特定健診の開始により保険者に求められている受診率の向上には配偶者健診の充実が欠かせませんが、当財団では地域の健康保険組合の皆様とともに10数年に亘り独自の仕組みで主婦健診に取り組んでまいりました。そのノウハウを発展継承して地域の健康増進に努めつつ、新健診制度の確立にお役に立つよう尽力いたします。

人間ドックの充実

健診バスによる巡回健診に対し人間ドックは主として施設での外来健診となります。全施設がレントゲン設備のデジタル化を終えておりますが、更に設備・機器の更新に努め、ご契約頂いている各企業・団体・健康保険組合・共済組合様、それぞれのニーズに沿った高い精度の健診を提供できるよう努めてまいります。

P E T 健診

北九州エリア唯一のP E T 健診施設としてP E T 健診センターを開設以来当年度で8年目を迎えますが、従来検査では発見が難しかった早期の微小がんを高い精度で発見できる最先端技術の一つとして地域での認知度も向上し医療機関様からのご依頼である保険診療を中心に需要は更には高まっているため、前年度を上回る受診者を受入することにより地域社会から「がん」を撲滅するために貢献すべく鋭意努力を継続いたします。

(3) 環境測定

職場の作業環境の健全性維持は、勤労者の健康保持に欠くことのできないものであり、関係機関・団体と連携を図りながら、職場環境の改善と維持に貢献できるよう取り組んでいきます。

平成21年度より北九州と大分に独立していた環境測定部門の一体運営を行っており、両施設の強みを活かしながら全国でもトップクラスとの評価を受けている高い精度を維持しつつ、職員の更なるスキルアップ、機器の拡充を計画的に進めてまいります。

また、当財団の環境測定部門は単に測定・分析業務にとどまらず、永年の業務遂行の過程でスキルを蓄積してきた労働衛生コンサルタントを複数擁しており、作業環境測定業務・健診業務・産業保健業務全般をご支援できるエキスパートとして地域社会への貢献を目指しております。

(4) 臨床検査

更なる検査精度の向上に努め、疾病の診断・治療・健康管理に有用な医療情報の提供に精励いたします。また国が推進する特定健診等に対応した臨床検査の標準化にも即応すべく、弛まぬ調査・研究を励行し、医療機関・健診機関が求める質の向上に応えます。

(5) 病院

医療制度改革により事業環境は引き続き厳しい状況にありますが、次の事項を重点に取り組みます。

治療・医療環境の一層の充実を図り、患者サービスの向上に努めます。

地域の求める病棟編成を構築し、その病棟の特性を生かした入院患者様の受け入れに取り組んでいきます。

地域医療連携室の充実を図り積極的な在宅支援や病診・病病連携により質の高い医療機関として地域に認められる病院を目指します。

病院機能評価の認定施設として、その評価に値する恒久的な病院運営に取り組んでいきます。

医療制度改革に伴う医療・介護保険における改訂の動きに即応して、今後の経営計画に着実に反映させられるよう取り組んでいきます。

医師、コメディカル、事務職員等全てのスタッフが同じ目的意識に立脚し、それぞれが誇りを持って患者サービスに寄与できる「働きがいのある職場」を目指します。

以 上

1.事業計画

区 分		平成22年度実績見込(注1)		平成23年度計画		備考
産業医・保健 師 活 動	事 業 場	542		550		
	保 健 指 導	984		1,000		指導人数
健 康 診 断	一 般 健 診	191,450	48.6%	196,500	48.9%	人員
	協会けんぽ(旧政管)健診	51,457	13.1%	52,400	13.0%	"
	生活習慣病健診	53,702	13.6%	54,100	13.5%	"
	ド ッ ク 健 診	21,870	5.5%	22,200	5.5%	"
	P E T 健 診	4,515	1.1%	5,100	1.3%	"
	付 加 健 診 (注)	(160,874)		(170,600)		件数
	特 定 健 診	10,020	2.5%	12,300	3.1%	人員
	再 検 査 ・ 二 次 検 査	6,469	1.6%	7,200	1.8%	"
	特 殊 健 診	54,600	13.9%	51,900	12.9%	"
	外 来 診 療 (注)	(4,381)		(4,500)		"
合 計		394,083	100%	401,700	100%	(注2)延べ受診人員
環 境 測 定	作 業 環 境	6,189	33.3%	6,370	33.6%	件数
	煙 道 ガ ス	373	2.0%	410	2.2%	"
	石 綿	1,584	8.5%	1,660	8.8%	"
	そ の 他	10,444	56.2%	10,505	55.4%	"
	合 計		18,590	100%	18,945	100%
臨 床 検 査		2,263,687		2,259,000		件数
病 院	入 院	105,710		106,580		延べ人員
	外 来	9,513		10,360		"

(注1)：平成22年度実績見込は、平成23年1月迄の実績に基づき推計により算出。

(注2)：健康診断合計には、()内数値(付加健診及び外来診療)を除き、一般健診については有害業務従事者の重複健診、政管健診については付加健診・がん健診ほかの重複受診者を含む延べ人員を表示。

2.事業計画内訳

(1)産業医・保健師活動

項目	平成22年度実績見込	平成23年度計画	備考
産業医・保健師契約事業場	542	550	
特定保健指導	984	1,000	指導人数

(2)健康診断

区分	科目名	平成22年度実績見込	平成23年度計画	備考
一般健診	定期A	77,557	75,100	
	定期B	67,037	72,800	
	定期C	36,823	38,600	
	雇入時健診	10,033	10,000	
	小計(一般健診)	191,450	196,500	
協会けんぽ(旧)	一般健診	44,367	45,000	
	付加健診	857	900	
	乳がん	2,311	2,400	
	子宮がん	3,604	3,800	
	その他(特定健診等を含む)	0	0	
	肝炎ウィルス検査	318	300	
小計(協会けんぽ健診)	51,457	52,400		
生活習慣病健診	共済組合	8,381	8,300	
	指定健診	39,067	39,100	
	ヘルスチェックママ	6,254	6,700	
	小計(生活習慣病健診)	53,702	54,100	
ドック健診	日帰り人間ドック	19,386	19,800	
	日帰り人間ドック(配偶者)	1,655	1,800	
	一泊ドック	829	600	
	小計(ドック健診)	21,870	22,200	
PET健診	PET健診	4,515	5,100	
	小計(PET健診)	4,515	5,100	
付加検査	付加検査(オプション)	160,874	170,600	
	小計(付加検査)	160,874	170,600	
特定健診	特定健診	10,020	12,300	
	小計(特定健診)	10,020	12,300	
再検・二次検査	再検査	4,749	5,300	
	胃・十二指腸	116	100	
	大腸検査	3	0	
	腎機能	322	300	
	肝機能	157	200	
	耐糖検査	339	500	
	CT検査	187	200	
	その他二次検査	596	600	
	小計(再検・二次検査)	6,469	7,200	
特殊健診	じん肺	7,801	8,800	
	歯牙	1,818	1,300	
	鉛	1,512	1,500	
	有機溶剤	11,978	10,800	
	コールタール	1,651	1,700	
	紫赤外線	3,305	4,300	
	騒音	8,315	8,700	
	振動	1,820	1,800	
	VDT	4,964	4,700	
	石綿	3,256	3,100	
	その他特殊	7,237	4,500	
	特殊二次	421	200	
	管理手帳	522	500	
小計(特殊健診)	54,600	51,900		
外来	外来	4,381	4,500	
	小計(外来)	4,381	4,500	

(3)環境測定

科 目		平成22年度実績見込	平成23年度計画	備考
作業環境	粉 じ ん	1,595	1,700	
	特定化学物質	1,263	1,300	
	金 属	127	150	
	有 機 溶 剤	2,186	2,100	
	騒 音	678	750	
	照 度	37	50	
	事務所管理	29	30	
	局所排気定期点検	185	200	
	作業環境診断	24	40	
	そ の 他	65	50	
	小 計	6,189	6,370	
煙道排ガス	煤 じ ん	135	140	
	硫黄酸化物	67	80	
	窒素酸化物	143	160	
	そ の 他	28	30	
小 計	373	410		
その他	排 水	468	270	
	飲 料 水	110	260	
	産業廃棄物	122	0	
	そ の 他	2,042	2,240	
	(特検)鉛	218	225	
	(特検)有機溶剤	7,484	7,510	
	石 綿	1,584	1,660	
小 計	12,028	12,165		
合 計	18,590	18,945		

(4)臨床検査

項 目		平成22年度実績見込	平成23年度計画	備考
血	清	258,268	260,000	
血	液	175,854	175,000	
生	化 学	1,806,061	1,800,000	
細	胞 診	23,504	24,000	
合 計		2,263,687	2,259,000	

(5)病院

項 目		平成22年度実績見込	平成23年度計画	備考
入	院	105,710	106,580	
外	来	9,513	10,360	
合 計		115,223	116,940	